おびひろ まちづくり 史跡ガイド

史跡File 1 栗山橋跡

明治31年に、栗山恒次郎さんが初めて札内川に橋を建てた。通行は有料だった。のちに栗山さんは橋を国に寄付し、現在の札内橋に歴史が繋がっていく。

●明治31（1898）年築（現存せず）

〒080-0814
北海道帯広市東14条南5丁目付近
堤防上

MAPCODE 124 658 131*87

史跡File 2 おびひろ競馬場

かつては競馬だけでなく馬市が開催され、優秀な十勝馬が全国に旅立った。雄馬のイレネー号はたくさんの子孫を残し、銅像になって功績を後世に伝える。

●昭和7（1932）年完成

〒080-0023
北海道帯広市西13条南9丁目

MAPCODE 124 622 189*10

※競馬場内は有料です。

史跡File 3 十勝鉄道蒸気機関車4号及び客車コハ23号

十勝鉄道で用いられていた蒸気機関車と客車。十勝鉄道はビートを運ぶために生まれた鉄道だが、帯広南西部や芽室の人々の移動手段としても役割を果たした。

〒080-0017
北海道帯広市西7条南20丁目4

MAPCODE 124 564 634*00

史跡File 4 十勝監獄石油庫

監獄の保管庫として建造された、帯広市最古の建物。蜘蛛の巣に注意して近くでレンガ造りの建物を観察してみよう。屋根付近のデザインが見所。

●明治33（1900）年建造

〒080-0846
北海道帯広市緑ケ丘

MAPCODE 124 563 580*60

史跡File 5 北海道集治監十勝分監窯跡

北海道集治監十勝分監（後の十勝監獄）の開庁に先立って造られた窯の跡。ここで囚人によりレンガが製造され、開拓初期の建材となった。春や秋の草の少ない時期が見学しやすい。

●明治26(1893)年築。窯は現存せず。

〒080-0846
北海道帯広市緑ケ丘

MAPCODE 124 562 348*43

史跡File 6 ビート資料館

この地に建った巨大な工場により、帯広十勝のビート生産は本格化。地域とビートのつながりを紹介する資料館の前庭には、記念碑や工場で使用された機械が設置されている。

●工場は大正9（1920）年に完成

〒080-0831
北海道帯広市稲田南8線西14

MAPCODE 124 503 497*65

※ビート資料館の見学には、入場料が必要です。

史跡File 7 真正閣

皇太子（のちの大正天皇）の休憩所として建造。公民館として利用されたのち、昭和43（1968）年に真鍋正明さんが購入し移転。お名前をとって「真正閣」となった。庭園に映える古建築を見に行こう。

●明治44（1911）年建造

〒080-0832
北海道帯広市稲田町東2線6

MAPCODE 124 475 722*64

※真鍋庭園内にあり、入場料が必要です。
また、内部の公開はしていません。

市内広域MAP

史跡File A 旧士幌線跡

帯広駅から糠平方面に伸びていた鉄路の跡を散策できる緑地。十勝北部の木材を帯広駅に運び、帯広からは糠平温泉へ観光客を送った。

●大正14（1925）年開業、
昭和62（1987）年廃止

史跡File B 旧広尾線（光南緑地）

帯広駅から広尾方面に伸びていた鉄路は、現在光南緑地として整備されている。十勝南部の開拓を発展させ、のちには襟裳岬への観光や愛国・幸福ブームの原動力になった。

●昭和4（1929）年開業、
昭和62（1987）年廃止

史跡File C 旧十勝鉄道線路跡（とてっぽ通）

ビートの輸送のための鉄道として誕生。その後旅客営業も行い、帯広南西部・芽室南部の産業や生活を支えた。線路跡はとてっぽ通として整備されている。

●大正9（1920）年専用線開通、大正13年地方鉄道として開業、昭和34（1959）年旅客営業廃止、
昭和52（1977）年廃止

徒歩で、自転車で、車で。帯広の歴史を巡ろう。

さらに深く知りたい方はこちら：帯広市史跡標示板https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/bunka/rekishi/shiseki/index.html（QRコード）、『おびひろの古建築 上』（北海道建築士会十勝支部帯広分会・帯広市教育委員会 、1992年刊行）、『おびひろの古建築 下』（同左、2012年刊行）

制作：帯広百年記念館